

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470400732		
法人名	社会福祉法人 紫雲福祉会		
事業所名	グループホームおおつるの家		
所在地	大分県日田市大鶴町2267-1		
自己評価作成日	平成29年1月15日	評価結果市町村受理日	平成28年6月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成29年3月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>地産地消を目指し、地元野菜・お米を使い食事を提供している。食事は自前で作り、調理の音や匂いが感じられるようにしている。リビングでゆったりとした生活がおくれます。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>・「尊敬の念を持ち、ご利用者の今を支える」と理念を掲げ、和顔愛語に心掛け、実践に繋げている。 ・地産地消になるよう地域の食材を使用し、施設内で3食手作りされている。利用者の能力を生かした出番があり、職員と共に和気あいあいと準備や片付けをし、食事を楽しんでいる。 ・水害・火災・夜間想定避難訓練や、年に1度近隣住民と消防団と合同訓練を行っている。地域との協力体制が築かれており、市と福祉避難所としての協定も結ばれている。 ・自治会・消防団・青年団に所属し、地域の一員としての関係が築かれている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業者名:

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットに理念を掲示いつも見える状態で理念の共有をしている	「尊敬の念を持ち、ご利用者の今を支える」と理念を掲げ、共有スペースに掲示し、和顔愛語を心掛け、年に1度は園長が職員と面接し、理念を再確認し、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の方との行事等を取り入れ、利用者や事業所自身が地域の一員として交流している。地元自治会・消防団・青年団に属している	地域に出かけたり、住民の方が野菜や花を持ってきてくれるなど、日常的なつながりがある。地元の自治会・消防団・青年団に属しており、地域行事や会議等を施設の敷地内で行ったり、法人の祭りの手伝いを青年団が行うなど交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々の訪問や、保育所・学校等の方民を受け入れ、理解を促している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で運営の状況など報告し、意見については、職員会議で職員に周知し、サービスの向上につなげている	運営推進会議は2か月に1度、市の担当・包括センター・自治会・家族などの参加があり、マンネリ化しないよう工夫しながら開催され、サービスの向上に繋げている。会議で施設の取り組みや現状の報告を行い、地域の方に知ってもらえる場になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当者と連絡を取り、利用の申し込み状況や、待機者の状況等を連絡し、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の介護保険係と常に連絡を取り、何でも相談できる関係が築かれている。また利用状況や待機者の情報交換等が行われ、協力体制が整っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	見守りを行い、なるべく自由に生活ができるよう取り組んでいる。職員会議等で身体拘束について話をする機会を設けている	見守りながら、言葉による拘束にも気を付け、日々のケアに努めている。人権に関する研修や、職員会議などで話し合い、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部講師を派遣してもらい、研修を行っている。職員会議の場で話をするようにしている		

事業者名:

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者がいる。その都度職員からの質問があれば説明し、少しずつ学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をかけて説明し、制度改正時には、家族会で説明をしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との日ごろの連絡や、家族会にて要望を聞き、運営や日々の援助に反映させている	日常の連絡や半年に1度の家族会で要望を聞いたり、行事や面会の際に意見を聞き、サービスの向上や運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、運営会議を毎月行い、意見や要望を聞いている。話し合いを行い優先度の高い順から改善を行う	職員会議や運営会議、年に1度の面談の際などに、意見や要望を聞いている。悩みや困りごとの他に、職員のちょっとしたアイデアを取り入れ運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度末に施設長との面談を行い要望や提案を聴く場面を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得に向けて職員の意識付けをし、資格の取得に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会主催の合同研修会に参加し、他施設の職員との交流を図っている。同業者との交流で、互いのサービスを見直し、質の向上に取り組んでいる		

事業者名:

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との話し合いの場を設け、安心して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みに来られた時に、要望や困っていることを聴き、入所に当たり、出来る事出来ないことを伝え、お互いに協力していくことを同意して頂く。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の希望や生活状況を把握し、小kでの生活に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活で出来る事、その方のレベルに合わせてして頂いている。掃除・洗濯物たたみ・茶碗拭き・農作業の指導等をできる範囲でして頂いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や定期受診で日頃の様子を伝えていく。なるべく面会をお願いし、来ていただけるようお願いしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散髪や、デイサービスなど今まで行っていた馴染みの場所に行けるように支援している	行きつけの理美容院へ出かけたり、来てもらったり、高塚地蔵尊など馴染みの場所へ出かけたりなど関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関係や、その日の様子を見ながら、利用者同士が話をできるように、支え合えるように努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方でも、必要に応じて連絡を取りその後の様子を聴いている		

事業者名:

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望についていえる方は、かなう希望については叶えられるように努めているが、困難な場合には安心して生活ができるように努めている	一人ひとりの思いや意向を、家族や本人のつぶやきや仕草などから把握している。また公文式学習を活用し、アセスメントに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	申し込み時や、事前のアセスメントではわからない部分があるので、生活しながら本人・家族にその都度話をしながら把握するように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録にその日の様子を記入し、申し送りで伝える。職員会議でその方の現状を話し、援助につなげている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の申し送りや記録から、職員会議や家族との連絡で課題の解決に努めている。	アセスメントを基に実践しやすい介護計画を作成し、個人記録や日々の申し送りなどで状況を確認し、家族や本人と話し合い、現状に即したプランになるよう見直し作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録で様子を知りながら、情報の共有を図っている。介護計画の見直し時には、職員から様子を聴きながら作成するように努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望に関しては、出来る限り対応している。保険外のサービスについても出来る範囲で対応している		

事業者名:

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントには体調を見ながらの参加にはなるが、参加できるように調整し、地域の一員であることを理解して頂けるように努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々のかかりつけ医との関係を大切に、速やかに受診ができるように支援している	馴染みのかかりつけ医や、本人の希望する病院へ受診でき、また専門医への受診など、適切な医療が速やかに受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師に体調確認をしてもらい、適切な受信ができるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、情報提供速やかに行い、情報の共有をしている。病院関係者と連絡を取り、早期の退院ができるようお願いしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、家族との話し合いで今後の方針を共有し、事業所で出来ることを理解して頂き支援に努めている。出来る限り生活が継続できるように努めている	重度化や終末期のケアについて、入所時に説明し、利用者本人・家族と話し合い、書面で確認している。また家族会や病状悪化時などに再度意向を確認し、支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救急救命の研修を受け訓練をしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練等、水害や火事、夜間を想定した訓練をしている。年に1回地元の消防団と合同で家事を想定した避難訓練を行っている。自治会等近隣に協力を要請し、非常時には強力が得られるように関係を築いている	水害・火災・夜間想定避難訓練や、年に1度近隣住民と消防団との合同訓練を行っている。地域との協力体制が築かれ、市と福祉避難所としての協定も結ばれている。	

事業者名:

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の話に耳を傾け、本人の気持ちを損ねないような対応に努めている	理念や標語に掲げてあるように、一人ひとりの人格を尊重し、笑顔で接し、誇りを損ねない言葉かけや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	見守りを行いながら、その中で本人のペースを考慮して自己決定ができるように働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人その人の生活の流れを大事にし、自分の石で生活できるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	爪切り、髭剃り、整髪等日常の身だしなみに注意している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	準備、片づけ等出来る人は一緒に行っている。自分からして頂ける場面もある。	地産地消になるよう地元の食材を使用し、施設内で3食手作りされている。野菜の皮むきや下ごしらえ・テーブルやおぼん拭きなど、利用者の能力を生かした出番があり、職員と共に準備や片付けをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量や水分量など記録に残し、本人の体調を確認している。食事量の調整をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きを欠かさず行い、声かけ・見守り・介助にて行っている		

事業者名:

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンが掴めるように、記録に残し声掛け等必要な方には早めに促し支援している。トイレの感覚は大事にしている。	排泄の記録を参考にして、パターンを把握し、時間を見ながらさりげなく声かけトイレへ誘導している。排泄の自立に向けた支援がされ、失禁などの失敗やパット使用者が減少している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や乳製品、運動などで予防をしている。一人一人の様子を観察し、便秘にならないように努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、体調や気分を大事にし、本人が気持ちよく入浴できるように努めている	入浴は2日に1度、体調や気分など、利用者の希望に沿って支援されている。またリフト浴もユニットごとに設置されており、個々の希望に沿った入浴支援がされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでも部屋で休めるようにしている。リビングで横になりたい時は、ソファで横になれるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変更になった時は情報を共有し、飲み忘れ、誤薬の内容に二人で確認しながら服薬をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コーヒーなどが楽しみの方には、ゆっくりとした時間に楽しんで頂いている。楽しく過ごして頂けるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族、親戚、友達と外出ができるように、支援している。本人との会話の中で希望が聞き取れるように努めている。季節の行事を計画し季節を感じてもらう	近隣の散歩や、外での体操などの日常的な外出や、馴染みの高塚・原鶴などへのドライブや季節を感じてもらえる様な外出支援がされている。	

事業者名:

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所時におこずかいを預かり外出時や、訪問販売時に使えるようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけられる方は電話をして頂き、友達からの電話は確認して取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂けるように、時期の物を飾り季節の行事を大切にしている。室温は激しく変化の無いように心がけている	季節の花や時節の物をかざった明るい共有空間で、それぞれが気の合う人とソファでくつろいで和やかに過ごしている。たまに椅子などの家具を移動し、雰囲気を変えてみる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごして頂けるように、自由に共用スペースでは過ごして頂いている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の居室では自宅で使い慣れたものや、大切なものを持ってきていただいている。	自宅で使用していた思い出のある物・使い慣れた物・思い出の写真などを置き、居心地よく過ごせる居室づくりがされている。季節で模様替えをしたりなどの工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋がわかるように努めている。トイレや共用スペースでは安全に生活ができるように環境を整理している。		